科目名			担当教員	
心理的アセスメントⅡ			大関　信隆	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FF4556	1	1	SR (講義)	3 年以上
履修登録条件	受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。			
生成 AI 利用レベル	レポート　：　C		試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017 年度以前・2018 年度以降に入学した方どちらも履修登録できます。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

心理学的に人を援助するためには、対象者が示す行動を多面的に捉え、理解し、そこから関わりの方略を見出すことが必要になります。そのために心理学では対象者の内面をより深く、かつ客観的に捉えるツールを開発しています。「心理的アセスメントⅠ」（「心理アセスメント」）ではアセスメントに用いられる種々の方法、面接法や観察法、検査法などを学びました。本講義ではこの中から特に心理検査という手法にフォーカスを当てて、アセスメントの手法をより深く学習してみたいと思います。

教科書やレポート学習で主に学ぶ内容としては、検査法に関する基本的な考え方や、検査結果で用いられる数値や統計処理に関する基礎事項などが含まれます。スクーリングで主に学ぶ内容としては、実際の検査の用いられ方や報告書の書き方（報告書がどういうものなのか）などが含まれます。

■到達目標

１）検査法を用いたアセスメントの流れについて略説できる。
２）「人格検査」「知能検査」それぞれの特徴について具体的に説明できる。
３）対象者に合わせた検査の選択を行う必要性について説明できる。
４）適切な検査報告書がどういうものなのか説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」「主体的協働力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「心理学実験ⅠAB・ⅡAB・Ⅰ・Ⅱ」などと共通）

高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　補訂版』有斐閣アルマ、2017 年（補訂版でなくても可）

※「心理学実験ⅠA・Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは上記教科書は部分的に使用します。基本はレジュメが中心になります。

【参考図書】

１）青木省三・宮岡等・福田正人監『こころの科学 Vol.184　治療に活かす心理アセスメント』日本評論社、2015 年

２）C．J．ゴールデン著『高次脳機能検査の解釈過程―知能、感覚ー運動、空間、言語、学力、遂行、記憶、注意』共同医書出版社、2004 年

3）E．O．リヒテンバーガー・N．マザー・N．L．カウフマン・A．S．カウフマン著『エッセンシャルズ心理アセスメントレポートの書き方』日本文化科学社、2008 年

４）L．フェルナンデス著『樹木画テストの読みかた―性格理解と解釈』金剛出版、2006 年

５）日本臨床 MMPI 研究会　監『わかりやすい MMPI 活用ハンドブック―施行から臨床応用まで』金剛出版、2011 年

６）津川律子・篠竹利和著『シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査』誠心書房、2010 年

７）上野一彦・松田修・小林玄・木下智子著『日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント　-代表的な指標パターンの解釈と事例紹介』日本文化科学社、2015 年

８）氏原寛・亀口憲治・馬場禮子・岡堂哲雄・西村洲衛男・松島恭子著『心理査定実践ハンドブック』創元社、2006 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

⑴　スクーリング申込締切日までに、下記の科目の単位を修得していること。

2018 年度以降入学者：「心理学概論 A」「心理学概論 B」「福祉心理学」「発達心理学」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理的アセスメントⅠ」「心理学実験ⅠA」「心理学研究法 A」

2017 年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「生涯発達心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅰ」

⑵　スクーリング申込締切日までに、卒業要件単位 90 単位以上を修得していること。

⑶　スクーリング事前学習をきちんと行ってくること。

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、心理アセスメントの方法としてどのような検査があるのか、それらから何がわかるのか、それらをどのように使いながら心理士は実際の臨床現場で検査を用いているのか、について少しでも理解が深まればと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理臨床で検査を使う時	特に医療領域において心理検査がどのように用いられるのかについて概略を学ぶ
2	発達検査・知能検査とは	発達検査や知能検査の実際について学ぶ
3	人格検査とは	人格検査の実際について学ぶ

4	投映法とは何か	心理学独特の検査である投映法について学ぶ
5	ケースに応じた検査の選択 1	青年期以降の心理的諸問題をアセスメントする際に用いるテストバッテリーを考察する
6	ケースに応じた検査の選択 2	青年期以降の心理的諸問題をアセスメントする際に用いるテストバッテリーを考察する
7	ケースレポートの書き方	心理検査を行った際の報告書について学ぶ
8	まとめと質疑応答	全体総括
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

レジュメとスライドを用いながら講義をします。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験 100%

下記をポイントに、講義で用いたレジュメの中から出題します。

1 ）発達検査や知能検査が捉えようとしている精神機能が何かを理解しているか。

2 ）様々ある人格検査の中から代表的なものをイメージし説明できるか。

3 ）対象者の状況に合わせた検査の選択について考えることができるか。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

「心理的アセスメントⅠ」または「心理アセスメント」の講義内容について、他者に伝達講習ができる程度に復習してください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	検査の科学性①（p.236）	娯楽としての心理テストとツールとしての心理検査	心理学で用いている検査というツールが、一般的な「心理テスト」と異なっていることに気づく
2	検査の科学性②（p.236）	解釈の根拠と妥当性	正しい解釈を行うために必要な、「妥当性」という考え方を知る
3	妥当性と信頼性①（p.240）	仮説検証としての妥当性検証	妥当性を検証することの複雑さについて知る
4	妥当性と信頼性②（p.240）	妥当性の収束的証拠と弁別的証拠	妥当性に求められる要件について知る
5	妥当性と信頼性③（p.240）	得点の一貫性としての信頼性	検査の信頼性という考え方について知る
6	検査得点の解釈と標準化①（p.244）	職業興味検査を用いた解釈例	具体的な検査の解釈例を知る
7	検査得点の解釈と標準化②（p.244）	基準と基準集団	解釈における基準集団の意義を知る

8	検査得点の解釈と標準化③（p.244）	パーセンタイル順位	パーセンタイル順位という値がどのような性質の数値なのかを知る
9	検査得点の解釈と標準化④（p.244）	標準得点	標準得点という値がどのような性質の数値なのかを知る
10	検査得点の解釈と標準化⑤（p.244）	パーセンタイルと標準得点の関係性	統計的に見たパーセンタイルと標準得点との関係性を知る
11	検査得点の解釈と標準化⑥（p.244）	検査の標準化	検査における標準化の重要性について知る
12	検査法に関する研究①（p.250）	検査の開発研究	検査を開発する意義を知る
13	検査法に関する研究②（p.250）	検査得点の統計的理論	検査において統計がどのように関係してくるのかを知る
14	検査法に関する研究③（p.250）	相関の希薄化	検査における信頼性の高さの重要性を相関という観点から知る
15	検査法に関する研究④（p.250）	項目反応理論	検査を作成する際に考慮する反応項目理論について知る

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

■アドバイス

この科目では、心理検査を語る以前に、心理学が人間をどのように捉えようとしているのか、その基本的なスタンスをどこまで理解できているのかが重要になります。心理学とはなにか、心理学は人間理解にどのように貢献しようとしているのか、人間という種はそもそも他の種と比較してどこが異なりどこが同じなのか、などといった、少々広い人間観、心理学観が前提としてあると思います。この上に、検査を使って人を理解するという行為が成り立っています。そのあたりに思いを馳せながら学習してください。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。